

## 北海道社会学会ニュース

## H.S.A.NEWSLETTER

発行：北海道社会学会事務局

〒060-0062 札幌市中央区南2条西10丁目 クワガタビル

北海道NPOサポートセンター気付

FAX: 011-261-6524 E-mail: socio@npohokkaido.org 担当 松本

郵便振替口座 02760-3-3085 URL http://www.soc.nii.ac.jp/hsa

HOKKAIDO SOCIOLOGICAL ASSOCIATION

c/o Hokkaido NPO Support Center,

Kuwagata Bldg., Minami 2 Nishi 10, Chuo-ku, Sapporo, 060-0062 JAPAN

Newsletter Editor: HIRASAWA Kazushi

編集責任者：平沢和司（庶務理事） 北海道大学大学院文学研究科 hirasawa@cme.hokudai.ac.jp

〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目 TEL 011-706-3322（直通） FAX 011-706-4801（講座共通、3月より変更）

## 第56回北海道社会学会大会について

2008年6月22日（日）に旭川医科大学において開催されます。今回は1日開催を試行することになりました。同校の松岡悦子会員を中心に準備を進めていただいております。大会プログラムは、次号のニュース（5月中旬発行予定）でお知らせします。

## シンポジウムについて

「医療は過剰であろうか：健康・医療と現代社会」

近年、これまで病気の範疇に入っていなかった太りすぎがメタボリックシンドロームとして予防医学の対象とされたり、子供や成人の問題行動が発達障害や人格障害という疾病概念によって説明されることが増えてきている。医療の対象領域は拡大している。しかし、それによって人々の健康不安がかき立てられ、自分を健康と思えない人が増えるというパラドックスが生じている。現代社会において医療は過剰になっているのではないか。

その一方で、救急病院、産科等では、医師の過重労働、診療科の閉鎖などが問題とされ、医師不足や医療の欠如が印象づけられている。この一見矛盾する医療の過剰と不足というテーマを論じるには、医療を外から見る視点が必要となる。一般に医療サービスは、なくてはならない人間の基本的ニーズとされている。しかし、その医療が必要以上に過剰になることで、何らかの問題がひきおこされてはいないだろうか。また、医療の過剰という問題に対して社会はどのような対処をすることができるのだろうか。

本シンポジウムはこのような問題意識から、一見矛盾する医療の過剰と不足というテーマを医療人類学・医療社会学的な観点から考察するものである。

司会 松岡悦子 旭川医科大学准教授

スピーカー 佐藤純一 高知大学医学部教授

スピーカー 林美枝子 札幌国際大学教授

コメンテーター 井上芳保 札幌学院大学教授

(文責：櫻井研究活動委員長)

## 一般報告の申し込みと報告要旨の提出について

一般報告をご希望の方は、下記の要領に従って、(1) 報告の申し込みと (2) 報告要旨の提出をお願いいたします。またシンポジウムの報告者も、(2) 報告要旨の提出をお願いいたします。

## (1) 一般報告の申し込み

- ①本学会ホームページより「報告申込書2008」（Word版）をダウンロードしてください。
- ②同用紙に必要な事項を記入のうえ、事務局（担当：松本、e-mail: socio@npohokkaido.org）まで添付書類でお送りください。ファイル名は「報告申込書2008〇〇〇〇.doc」（〇〇〇〇は報告代表者の氏名の漢字表記）としてください。
- ③申し込み期限は**4月17日（木）**（必着、期限厳守）とします。これまでに2007年度（07年5月請求）までの会費を完納してください。
- ④事務局は申し込みのメールを受領後、その旨の返信メールをお送りします。数日たっても返信メールがない場合は事務局へご確認ください。

## (2) 一般報告・シンポジウム報告要旨の提出

- ①以下の書式でWordによって報告要旨を作成し、大会校の松岡悦子会員（e-mail: matsuo@asahikawa-med.ac.jp）まで添付書類でお送りください。ファイル名は「報告要旨〇〇〇〇.doc」（〇〇〇〇は報告代表者の氏名の漢字表記）としてください。なお、タイトルや報告者は、報告申し込み時と完全に一致させてください。この段階での変更は認められません。

【書式】A4版1頁40字×40行を2頁までとします。1枚目は上7行に、報告のタイトル<14ポイント>（必要に応じて副題<12ポイント>）、所属と氏名<12ポイント>を記入して下さい。本文は<10.5ポイント>でお願いします。文字フォントは、和文は明朝体、欧文はcenturyを使用し、ページ設定における余白は、上25ミリ、下25ミリ、左25ミリ、右25ミリにしてください。なお、要旨集のフォーマットは北海道社会

- 学会のホームページよりダウンロードできます。
- ② さらに①による原稿を印刷し、折らずに下記まで郵送してください。原則として、郵送された原稿をそのまま印刷に用います。
- 送り先：〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1-1  
旭川医科大学 松岡悦子 (電話0166-68-2717)
- ③ ①添付書類および②打ち出し原稿の提出期限は、いずれも**5月19日(月)**(必着、期限厳守)とします。

## 2007年度第2回理事会報告

日時：2月28日

会場：北海道大学文学部 E308 室

出席者：笹谷会長、小内副会長、大國・加藤・櫻井・樽本・平沢の各理事

### 報告

#### 1. 庶務報告(平沢和司庶務担当)

1-1. ホームページの維持管理: 社会学系コンソーシアムのニューズレターをあらたに掲載するなど適宜、更新を行っていることが報告された。

1-2. 研究奨励金: 1月31日に締め切ったが、ふたたび応募がなかったことが報告された。そこで募集期間を再延長することになった(下記参照)。

#### 2. 研究活動委員会報告(櫻井義秀研究活動委員長)

6月22日に旭川医科大学において開催される次回大会について準備を進めていること、シンポジウムについては研究活動委員会が主催し人選を進めていること、などが報告された。

#### 3. 編集委員会報告(内田司編集委員長は校務のため書面にて報告)

省略

### 議題

#### 1. 2009年度大会校について

会長が主導して大会校を選定し、依頼することとなった。

#### 2. 『現代社会学研究』掲載論文の著作権について

掲載論文のインターネット上での公開に備えて、著作権が学会に帰属することなどを編集・投稿規程にもりこむべく庶務担当理事および編集委員会が中心となって検討を始めることになった。

#### 3. その他

次回理事会は2008年6月22日(大会当日)に開催することとなった。

## 北海道社会学会研究奨励金について

北海道社会学会では社会学研究の活性化と若手の

育成を目的として、昨年度より研究奨励金を交付しています。前号のニュースで奨励研究を募集いたしましたが、締め切り日までに応募がなかったため、募集期間を再延長します。なお応募方法が変更されていますのでご注意ください。

1. 募集件数: 2件(1件5万円)

2. 応募資格: 本会会員(若手単独が望ましい。若手とは、自分で科学研究費申請ができない地位にある大学院生や大学院修了者等を指す)

3. 条件: 奨励金交付後2年以内の本学会大会での研究発表、および2年以内の『現代社会学研究』への投稿を条件とします。

4. 応募方法: まず本学会ホームページから「研究奨励金申請書」(Word版)をダウンロードしてください。ついで申請書にしたがって下記を記入し、庶務理事まで郵送により提出してください。メールの添付書類では受け付けません。

①研究テーマ、②応募者(氏名・所属) 〒・住所・TEL・FAX・e-mailアドレス、③研究の目的と「社会学研究」としての意味・位置づけ等(具体的に)、④研究の方法と予想される成果(具体的に)、⑤指導教員の署名と印

5. 応募用紙の提出期限: 2008年6月9日(月)必着

6. 提出先・問い合わせ先: 平沢和司(庶務理事、あて先は1ページ参照)

## 会員異動(2007年12月~2008年3月)

なし

## 会員情報の更新について

住所や所属が変更になったときは、遅滞なく郵便かメールで事務局(担当: 松本 socio@npohokkaido.org)までお知らせください。その際、e-mail アドレスもお忘れなくご登録ください。

## 会費の納入について

2007年度(以前)の会費が未納の会員には、郵便振替用紙[郵便振替口座 02760-3-3085]を同封しています。すでに年度末を迎えていますので早急に振り込みをお願いします。年会費は一般会員6,000円、学生・院生会員4,000円です。2007年度会費を納入されていない方には、機関誌第20巻(07年6月発行)をお渡ししていません。5年間滞納されると、自然退会の扱いとさせていただきます。なお2008年度分会費は次号のニュースで全員に請求させていただきますが、事前に振り込んでくださる場合は通信欄に2008年度分と明記してください。